

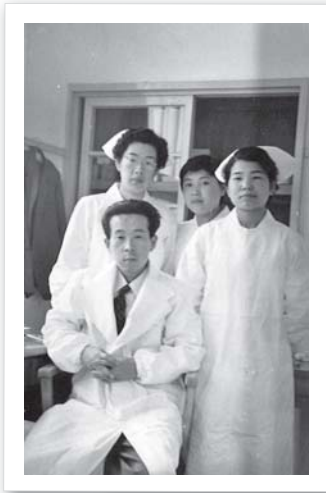
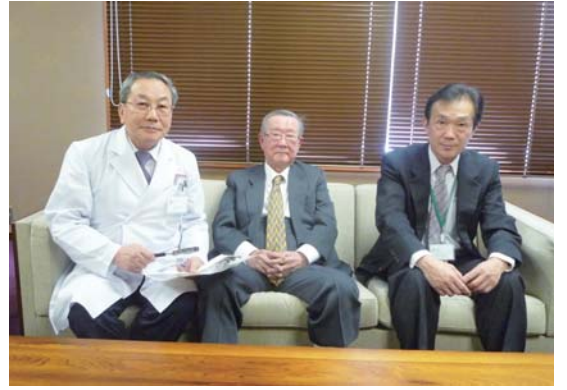
～創立 60 周年記念対談～

—横田公夫先生をお迎えして—

昭和 31 (1956) 年の病院創立時に外科医長として赴任された横田公夫先生にお話をお伺いしました。(対談日：平成 28 年 2 月 23 日)



対談者： 横田 公夫 先生 (写真中央)  
山本 祐司 院長 (写真左)  
花本 雄二 事務長 (写真右)



横田公夫先生を囲んで

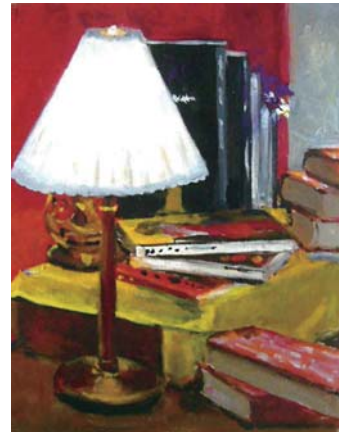
と当時は振り返られた。市営の 4 階建ての風呂なしアパートに富永先生らと入居し、昭和 39 年の東京オリンピックは

横田公夫先生は大正 15 年生まれで、香川県丸亀市の出身である。昭和 25 年に熊本大学医学部を卒業後、岡山大学の陣内外科に入局し、てんかんの研究に従事されていた。昭和 31 (1956) 年 6 月 1 日の松山市民病院的の創立にあわせ、藤井幸雄初代院長、内科医長の富永弘先生とともに岡山から赴任された。宇高連絡船で高松に渡り、国鉄の予讃線で松山まで来たが、1 日ばかりで大変遠かった

このアパートで観戦されたそうである。結婚して既に長男がおり、次男は松山で誕生した。

開院当初は 20 床で運営し、のちに 32 床に増床した。当時の外科症例は虫垂炎や潰瘍、胃がんなどで、バリウム造影で診断をしていた。手術は腰椎と局所麻酔で、一人で行っていた。その後、昭和 36 年に松山市内にて開業された。

趣味は絵を描くことで、“チャーチル会松山”などで定期的に発表されている。満 90 歳の現在も背筋はまっすぐ伸び、矍鑠とされており、はっきりとした口調で語っていただいた。



チャーチル会に出展された絵画



松山市民病院創立当初の木造病舎



松山市民病院落成式の餅まきに集まった人たち



落成式後の歓談の様子

地図で見る松山市民病院の変遷 ～ Part2 ～ 《Part1 は平成 26 (2014) 年夏号に掲載》

…松山市民病院

